

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104280		
法人名	有限会社ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	和歌山市小瀬田85番地		
自己評価作成日	令和 3年 3月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3070104280-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様中心に考え行動し、できる限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日を過ごすために健康管理に努めている。そのため、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられるようにしている。なお、受診する際の送迎等については、車いす移動車を導入しており、できるだけ家族様に負担をかけない様に配慮している。

1、常に入居者様を中心にいかにかにして安心して快適な毎日を過ごす事ができているか
 2、健康管理は重要で些細な事でも見逃さないよう十分管理し、常にベストな体調を維持しているか
 3、家族様には安心してお預け頂き、家族様の負担軽減につながり、お役に立つことができているか
 この三つのスローガンを基に行動している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年の開設当初からの理念を大切に、常に、認知症介護の質の向上及び環境整備の改善等を図り、入居者や家族の安心と満足に努めている事業所である。

また、開設当初からの入居者や職員が多く、家族、地域の人々、関係機関等とはなじみの関係性ができており、施設内は明るく、穏やかで、居心地の良さが感じられる。

感染症対策も徹底しており、感染症対応ができる個室や備品の用意、敷地内の移動経路の確保、職員が実際の場面をシミュレーションする等の取り組みをしている。

また、災害時の対策の1つとして、入居者個々に、必需品が入ったリュックサックを常備し、入居者の安全安心に努めている。

家族には、毎月、ホームの情報誌である「ふるさと便り」、職員が手書きした報告書、写真の送付を継続しており、入居者の生活の様子が分かりやすく、家族が安心できるような細かい配慮をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有、実践の為に各棟のホールに掲示し 職員会議等で確認している。地域の中で穏やかにそれぞれが自分らしく暮らしていけるような住環境に工夫 配慮している。見渡せる大きな窓、風通しの心地良い中庭、緑が映え地域の方と気さくに会話出来るアプローチ。ホームの理念を共有できるようホールに掲示し、私達の理念が実際のケアに活かせるよう地域の方々よりも助言頂き 努めている。	開設当初からの理念に基づき、職員は日々の認知症介護の実践に努め、施設の環境面、入居者の健康管理等においても、様々な工夫、改善が見られる。 入居者の家族には、施設の理念を丁寧に説明し、入居者、家族、職員間で理念が共有できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動、回覧板の受け渡し、集会等に参加させて頂いている。地域の方々より季節の野菜や果物を頂いている。現在はコロナ感染予防のため中止しているが、ふるさとのおいしい桜が満開の時には和やかな茶会を催し、皆様と桜を楽しむなど地域の中で暮らしを共に過ごさせて頂く様努めている。	新型コロナウイルス禍において、地域との交流は、電話を利用する等の工夫をすることで、今まで通り継続できている。 買い物は、外出が困難なことから、近所の人からの声かけにより、支援を受けている。 職員からは、地域に助けられて施設が成り立っているという意識が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々や老人クラブの方々との関わりを深めている。桜の花を入居者様と一緒に楽しんで下さり、認知症の方の思いや関わり方など、一緒にさせて頂く事でご理解ご協力頂いている。職員研修会など行う際には、自治会館をお借りするなどのご協力を頂いていたが、現在はコロナ感染予防のため、見合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域にお住まいの方、自治会の方、民生委員、家族様、入居者様、地域包括センターの方、皆様のご協力を得て定期的に開催している。ホームでの日々の暮らしの事や活動状況、消防訓練研修などを報告させて頂いている。皆様のご意見を都度頂いており、会議の内容がマンネリ化せず有意義な会議になるように努めている。また緊急事態発生時等、災害などの時には連絡網を作成して下さっておりご協力をお願いしている。現在はコロナ感染拡大防止の観点より会議は中止としている。自治会の方が交互に来訪して下さるため、適時ホームの取り組み等についてお話している。	新型コロナウイルス禍において、会議は開催できていないが、関係者に施設の運営状況等の報告書の送付、電話で実際を伝える等の工夫をして、意見を求め、施設運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各地域包括センターの方々と連携させて頂いており、包括主催の研修会などにも参加させて頂いており、職員の意識向上に繋げさせて頂いている。包括主催の相談会など、お知らせが届いた場合（認知症相談会他）など地域の皆様にもお知らせさせて頂いたり、入居者家族様のご相談事など、解決に向けて各包括の方々に繋げさせて頂いている。	地域包括支援センターとは、研修会の参加等で連携を深めている。 また、入居者の家族からの相談事を地域包括支援センターに繋げる等協力体制は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を事故予防対策として安易に正当化する事なく、認知症高齢者の立場になってその人権を保障しつつ介護を行うという基本姿勢の下で職員が一つとなり、取り組むべき課題について職員勉強会にて頻りに話し合いしている。また外部研修会にも参加し、介護の工夫を学びあい、拘束を招く状況をなくそうと全職員で取り組んでいる。見守りや入居者様との関わりを行いやすくするため、関わる時間を増やすため業務の見直しや環境の点検などに努めている。	職員は、外部研修、施設内の勉強会に参加し、日頃のケアを振り返る等の取り組みをしている。 玄関の施錠はしておらず、外出したいと考える入居者には、職員が敷地内の畑へ誘導し、一緒に作物(トマト等)の収穫を楽しめるような工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での職員会議、外部への研修会にも参加し、学ぶ機会をより多くするため業務の見直しを始め、意識の向上に努めている。職員はこの虐待防止法の存在と詳細をきちんと理解し、日頃から常に虐待に注意して介護を行う事。そして介護負担を抱えこみ過ぎず、先輩職員や同僚職員に上手にヘルプ出来る職場環境に取り組んでいる。虐待が起こってしまう背景には認知症という病気の存在もあり、認知症についての勉強会も都度開催し、職員間で様々な対応など話し合い虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部研修に参加し、自施設内でも権利擁護推進委員が中心となり勉強会を開いている。認知症高齢者の人権を守る為、それぞれの入居者様が穏やかで自分らしい暮らしについて意見を出し合い、専門の講師を招き必要性を見出して活用に繋いでいけるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約また改定等の際には解り易いよう丁寧にご説明している。入居後に予測されるリスク、心身の低下等についてもご説明させて頂いている。ご本人や家族様の不安事や疑問点について質問され易いよう環境に気を配り、十分な説明を行っている。メールアドレスを整備して、メールでも質問等にお答えしご理解ご納得頂いている。また地域包括センターにも繋いで相談に応じて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会を制限させて頂いている中でも、メールや電話、手紙などを用いて利用者様、ご家族様が意見、要望、質問等表せて頂けるよう配慮している。利用者様の日常の様子を報告することで安心して頂けるよう努め、その中でご意見等伺い運営に反映させて頂けるよう努めている。	メールアドレスを整備し、電話や毎月の請求書の中に、写真と手紙を同封することで、家族からの様々な意見、要望等が把握でき、入居者に対して、よりきめ細かなケアの実践等に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見、提案を聞けるよう感染対策を講じた上で気軽に相談できる場を設け、意見等を出し易い環境作りに努めている。職員からの意見や提案には代表者が会議等職員全体で話し合いを持ち、意見の交換がスムーズに行えるよう努めている。	施設のパンフレットのリニューアル、食事メニューの検討、感染症対策のパーテーション設置等、職員の意見が反映できている。、職員が意見を出しやすい機会の確保として、昼食時の時間を長くする等の工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格習得、実績、努力等考慮し特別賞与などを提供している。研修受講、資格習得に向け希望あればその希望に添えるよう勤務の調整、受講費用の負担など職員個々の希望に添えるよう努めている。職員と管理者は日頃からコミュニケーションを図り、管理者は代表者にその思いや意見を伝えていけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講し易くする為に勤務の調整等を行っている。管理者、職員とは日頃よりコミュニケーションを図り、職員個々の希望をくみ取りながら個々が向上心を持ち働ける環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域資源の利用により地域文化祭等の参加団体や同業者とも交流がある。メールアドレスを整備し、必要な機器の購入を図りネットワーク作りを支援している。勉強会に参加するなどの時には、必要な交通費諸費用にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、各関係事業者や主治医からの情報に基づき、アセスメントを行い不安なこと、ご要望に十分に耳を傾けている。信頼関係を構築する上で自施設での食事会、イベントなどに参加して頂き、些細な事でも気軽にお話してできるよう努めている。また、入居前にも訪問調査を行い、情報収集し、本人様や家族様の要望に対応できるよう配慮し、不安や疑問がないよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様と一緒に見学に来ていただき、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスにつながるよう取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、ご意見やご要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様がその時、まず求め、要する支援について十分、話し合える機会を設け、サービス開始後からも、家族様の意見や要望、不安な事や疑問点等をお聞きし、ご本人に必要なと考えられるサービス利用についてその都度々々カンファレンスを開き、職員間で話し合い、ご本人と家族様の意向をしっかりと把握した上で対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を中心に考え、行動し、日々の生活の中で表情や態度からくみ取れる様、職員間で入居者様ひとり1人の状態について話し合っている。介護や援助をするだけでなく、ご本人の能力に応じて負担にならないよう家庭でしていたであろう家事等に参加し頂けるよう努めている。また、入居者様が話しやすいよう、居室でお話する機会を設け、不安や意見はないかお聞きしている。現況コロナ感染拡大防止の観点より、若干の制限を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会を制限させて頂いているため、ふるさと便りや電話等を通じて、月に1度以上は利用者様の状態や近況を写真と共に報告している。ご家族の相談事についても耳を傾けさせて頂き絆を深め、意見を頂く事でサービスの向上を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会を制限させて頂いているが、感染症対策を行い、少人数短時間の面会は希望があれば応じている。	感染症対策を徹底して、必要な面会は少人数、短時間で対応したり、窓越しや車越しで面会する等の工夫をして、本人の馴染みの関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者ひとり1人での出来ることや、分かること、興味のある事や苦手な事を把握し、職員同士で共有している。個々の性格や能力も把握した上でホールでの座る位置等を考え利用者同士で会話がしやすい様に配慮している。また互いに苦手な部分を協力して、支え合い助け合えるような関係作りに努め、家族という様な雰囲気作りにつとめている。入居者同士がどこにいても会話を楽しめるよう可動式のパーテーションを設置し、必要に応じて移動させている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入居中の信頼関係が継続できるよう適時に連絡を取ったり、転所先にもお見舞いに行っている。退所後であっても来所は自由であり、各相談にも応じる支援を行い、関係を継続させている。また野菜や果物を下さる事もあり、ホームで調理して召し上がって頂くこともある。現在はコロナ感染拡大防止の観点より来訪はご遠慮頂いているが、電話等にて相談を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のふるまい、言葉、表情など常に観察させて頂き一人ひとりの思い、暮らしの希望をくみ取れるよう努めている。ご家族様より伺ったご本人の暮らしの思い出等、職員全体で把握し日々の暮らしの中で私達が得た情報はご家族様に伝え、ご本人の思いや意向についてご家族様と話し合いながら寄り添い、何でも話し合える関係作りに努めている。	入居当初から、家族との信頼関係の構築を図り、日々のケアの実践の中において、本人の様子等から本人の思いや意向の把握に努めている。 また、今後の目標として、本人らしさを適切に把握するため、認知症疾患センターや、今まで利用していた介護サービス事業所との連携を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とのコミュニケーションを日頃から密に図ることで、過去の生活歴、また新たな情報の収集が出来る。その情報を活かし、より良い支援過程の展開につなげ、従来の生活に近づけるような個別援助に努めている。また、以前に受けていたサービスがある場合はその担当者にも情報を提供してもらえるよう努めている。またご本人から得た情報を職員間で共有し、会議やカンファレンス時に話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回以上のバイタルチェックを行い、利用者個々の平均値を把握し、些細な変化も見逃さないよう努めている。自ら考えて決定できるような質問を心がけ、入居者様自身が選択できるよう努めている。また心身に対する支援については主治医の指示、指導の下で努めている。ひとり一人が個々のペースで生活出来る様な環境作りに努め、ご本人の思いを尊重してプライバシー保護にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の意向や希望を伺えるよう取り組み、一人ひとりの課題、あり方について職員会議、カンファレンスなどを通じて介護計画の見直しを行いより良い支援の提供、支援過程が行えるよう計画を作成している。また関係職種とも連携を図りそれぞれの意見を取り入れ、都度のモニタリングやヒヤリハット事例検討会など、現状に即した統一したケアを実践出来るよう職員や関係職種の方々の意見、アイデアを反映しながら状況に応じた介護計画を作成している。現在はコロナ感染拡大防止の観点より、電話等にてご家族様の意向や思いをお聞きし、今後のサービス内容について話し合っている。	面会時や電話等を利用して、ご本人、家族、後見人等の意向を聞き、アセスメント、プランニング、モニタリングを実施している。その後、職員全員の意見交換のカンファレンスを経て、その人らしく暮らし続けるための支援を盛り込んだ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送り、日常生活状況を細かく記録し、職員が常に確認できるようにしている。職員間でも情報の共有を行いながら記録を記入し、ひとり一人のその時々での表情や言葉、会話なども詳しく記入し、共有した上で話し合いや意見を出し合い、より良いサービスを提供できるよう実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複数の医療機関と連携、連絡を取り定期的な通院や往診を行っており、主治医の指示や指導の下、健康管理に十分な配慮に努めている。また日常からのご本人様からの要望、ご家族様の希望などにも傾聴し、運営推進会議内で、包括支援センターとの相談を行うなど、社会資源も活用しながら多角的な視点で、柔軟なサービスの提供に努めている。訪問看護師とも連携し、定期的に訪問して頂く機会を設け、普段から些細な事でも相談できる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源には何が必要か？を職員会議等またその一つでもある自治会老人クラブなどと運営推進会議を通して話し合いを行っている。身近な地域包括支援センターの職員の方々とご協力を得ながら安心、安全な日々の暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関での定期的な往診により心身の状態管理、感染症予防、栄養管理指導等に努めている。入居時にはご本人の希望、家族の意向など伺っており、専門医療科への通院支援も行っている。主治医とは常に連携を怠らず訪問看護師に月数回来所して頂き、入居者様の状態についてご意見、提案頂きまた主治医との橋渡し(家族様)にもご協力を頂き本人ご家族様の希望に添えるよう努めている。	感染症対策を徹底して、従来通り、主治医への通院、往診、訪問看護師の利用等の支援に努めている。 日々の入居者の健康管理等は、連携医療機関に相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の協力により、緊急時を含み適時に相談や指導など対応して頂いている。また、職員からの要望で看護師が講師となり、勉強会も開いて頂いている。往診時にも同行され、生活状況、体調変化等、相談に応じて頂きいつでも連絡が取れる体制になっている。また月に数回訪問看護師に来訪して頂き普段から状況を報告、相談し密に連携して。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な往診を通じて、医師や看護師には入居者の状態について把握して頂いているので、入院時には適切な治療が行われる。そのため比較的早期に退院出来ることが多く、今後の方向性についてももしっかり話し合っている。入院時には職員が頻繁に面会させて頂き、安心して治療に専念して頂けるよう取り組んでいる。また退院後は臨時往診も行われ、十分な対応をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の思いや望みを尊重しながら、連携医療機関の主治医からのお話も含み、入居時より想定し得る体調変化等については、ご家族、ご本人とは話し合いの場を設け、十分な御理解を頂ける様にしている。また重度化や終末期においての説明を行い、書面にて同意を頂いたり、事前意思確認書により、ご本人やご家族様が望まれるサービスが提供できるように努めている。老人保健施設、関係職種との連携もあり、重度化に関しての対応も出来る様にしている。	入居時に、本人、家族から、重度化や終末期に伴う意向を確認、事業所ができる対応について説明を行い、意思確認書を作成している。 また、随時意思を確認しながら、医師、訪問看護師、職員、関係機関等が連携をして、安心と納得が得られるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成しており、対応や手順等を日頃から話し合い慌てる事なく迅速に対応できるよう取り組んでいる。事故報告書やヒヤリ・ハットの内容を見直し、検討して今後の対策を話し合っている。 協力医療機関や訪問看護師への緊急連絡先を掲示板に貼付しており、急変時には主治医や看護師に指示を仰ぎ、冷静に対応出来る様に努めている。また、急変時の経過については詳細に個人記録に記載するようになっている。夜間であっても責任者や管理者等はすぐに連絡を取れるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え避難方法や消火器位置、避難経路をまとめホールに掲示している。火災通報装置や火災通報専用電話機の設置をしている。消防用設備の点検の際には専門の業者に使用方法を学び実際の災害時にも迅速に対応出来るよう入居者にも参加して頂き訓練を行っている。推進会議を通じ地域の皆様にも緊急時連絡網を作成して下さっており、また訓練の際にはご参加頂いている。水道工事のため水の確保のおりには、井戸水を確保して頂くなど地域の方にはご協力を頂いている。	自治会や運営推進会議で、災害時の協力をお願いし、避難訓練の参加や地域の緊急連絡網の作成等の協力体制が構築できている。 事業所においては、停電時に備え、自家発電装置を設置、断水時には、地域の人から井戸水が確保してもらえるような取り組みをしている。 また、災害対策マニュアルがあり、感染症を含めたそれぞれの災害の対応方法を記載し、全職員は内容を熟知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の暮らしの中で会話の際には言葉の使い方、話し方について一人ひとりの尊厳を傷つける事のないよう十分に注意を図っている。職員会議においても一人ひとりの接し方や関わり方について意見交換を行い、法令遵守責任者と人権について話し合い実践に繋げていけるよう努めている。個人記録等守秘義務について理解し取り扱いについても十分注意を図っている。	入居者の尊厳を保てるよう、勉強会を継続し、日々の業務の中で、言葉使いや対応方法の見直し等に努めている。 また、職員は個人記録等の守秘義務について理解し、管理等を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者ごとに、ご本人に理解して頂きやすい言葉、筆談や写真等の様々なコミュニケーションの方法を用いている。入居者様が考え決定できるような質問を心がけ、自己決定できるよう心がけている。ご本人やご家族の思いの普段からお聞きし、日常生活に反映できるよう努めている。ご本人の思いや希望を普段の会話から引き出し、自分で決定し、それを伝えやすい関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者ひとり1人の生活リズムを把握し、個々のペースを尊重している。日々の生活の中からご本人の要望を傾聴し、その日の体調や気持ちに配慮しながら、可能な限り要望に添えるよう配慮し、利用者様本位の生活ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師と連携し、入居者ひとり1人の嗜好に応じた髪型やカラーを楽しめるように取り組んでいる。衣類などは、ご本人が昔から馴染みのある衣類を入居時にご用意して頂き、着用して頂くなど、家庭での生活を継続できるような支援に取り組んでいる。また敬老の日や父の日・母の日といった行事の際には下着や靴下、ストールなど様々な物を個々の希望に応じてプレゼントさせて頂き、その中からその日の気分にあったものを選んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から利用者が希望するメニューを写真や本を用いながら相談し、献立表に書き出している。個々に合った形態や温度で提供し、旬の食材を使いながら各メニューに合わせた食器を使用する事によって目からも楽しめるよう配慮している。行事や誕生日会の際には、お寿司やオードブル等、手作りではなかなか作れないものも提供し、楽しんで頂いている。感染症対策のため時間をずらして食事をしていただいているが、パーティションを設置し、1人での食事にならないよう配慮している。	食品カタログも活用して、入居者に見てもらい、個々の好みを把握して、日々の食事が楽しめるような工夫している。 行事や誕生日会の食事も、入居者個々に合わせた工夫をして、楽しめるようなメニューの提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の摂取量を記録して、入居者ひとり1人の状態を把握できるように取り組んでおり、各人が持ちやすいカップや湯呑みを使用している。また、水分の取りにくい人には主治医と相談しながら、食事形態の工夫、トロミ剤、栄養補助飲料の使用やスポーツゼリーの提供も行っている。夜間に水分を飲みたいという要望などにも積極的に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人の能力に応じた方法で、食後の歯磨き、義歯の洗浄、またマウスウォッシュを購入し、うがいの支援にも力を入れている。うがいが難しく飲み込んでしまう方には飲料水でうがいして頂いている。また、それぞれが使いやすい好みの形のカップを使用して頂き、一日の中で口腔内や義歯が清潔で心地よく過ごして頂ける様努めている。食事の際にも気持ちよく食事して頂けるよう支援し、夜間も義歯を使用されている方は義歯洗浄剤を用意し使用するなど、昼夜を通して清潔を保持できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の都度、状態や形状等を記録し、その記録を活用して排泄リズムを把握し、極力失禁が減るように配慮しながらトイレへの言葉かけを行っている。また職員間でも情報を共有しながら、個々の能力に応じて排泄の方法を考えている。排泄中は席を外しご本人が気持ちよく用を足せるよう配慮し、自尊心が損なわれないよう努めている。また、ひとり1人の習慣などにも配慮しながら、トレーニングパンツを使用して排泄の自立を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを、日々の詳細な記録から把握して、その人に合った排せつ方法を検討している。 また、トイレ誘導等を行うことで、排泄の自立支援に努め、オムツからトレーニングパンツに改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを記録し職員全体で把握している。一日の水分量や入居者ひとり1人の嗜好に配慮しながら食事内容にも工夫している。またテレビのラジオ体操にも積極的に参加し、適度な運動をすることによって便秘の原因解消に努めている。主治医と相談を行いながら、その指導の下、内服薬を細かく調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の出来る環境作り、その準備を整えている。一人ひとりのその日の体調や希望に沿って入浴支援を行っている。入浴が困難な場合には足浴、清拭、個々の思いの衣服への更衣など行っている。日によって入浴剤や足マットを変える等、ささやかですが入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。入浴後には皮膚科で処方された保湿剤やご家族様がお持ちくださった保湿剤を使用し、乾燥予防ケアに取り組んでいる。	入居者が高齢化し、身体機能が低下しているため、リクライニングができるシャワーチェアを購入して、職員の意見を取り入れながら、いつでも、入居者が安心、安全に入浴ができるように、様々な工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室となっているため、いつでも自由に休息して頂けるようになっている。家具や寝具についてもご本人のなじみのあるものを持っていただき、くつろげるよう配慮している。また、洗面やトイレ、エアコンも各居室に完備しているため、落ち着いて過ごせるようになっている。コロナ感染者が発生した場合においても居室にていつもの空間で過ごして頂ける造りとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ひとり一人の薬については薬品名、容量、効能等いつでも確認できるように資料を作成しており、職員は常に閲覧し入居者ひとり一人の処方されている薬を把握できる環境を整えている。職員一人ひとりが各入居者の薬の種類や効能を知る事で、誤薬を防ぐようにしている。また、服薬の際には、きちんと薬が飲みこまれたか確認し、服薬管理簿に記録する事でミスのない服薬に努めている。また、処方薬は服薬時間ごとに分けており、何度も確認するようにし、誤飲を防ぐよう徹底している。訪問看護師や主治医、薬剤師に相談しながら服薬についての理解に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族様にお聞きして、今までの生活歴や得意なことを把握することで、その人らしい暮らしが継続できるように支援している。ご本人が家事参加などの役割を持って日々の暮らしに張り合いを持ち、様々なレクリエーションなどの参加を通して楽しみある毎日を過ごしていただけるように取り組んでいる。天気の良い日には、ふるさとの畑に行ったり周辺を散策することで、季節を肌で感じていただき、気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換ができるようにご本人の体調を見ながら外気に触れられる機会を作れるように努めている。ホームの敷地内には、梅や桜、季節の野菜が植えられており、室内や庭から花見や野菜の成長が楽しめる環境を作っている。敷地内がアスファルトになっていることで、車いすの方でも無理なく安全に移動していただけている。現在はコロナ感染拡大防止の観点より、人の多い場所への外出は避け、近所のお花やホームの敷地内での散歩等の支援を行っている。	新型コロナウイルス禍において、外出制限があるため、ホームの敷地内をアスファルトに改善したり、裏口にスロープを設置する等して、車いすの入居者でも、敷地内にある畑や花壇等に自由に行けるような取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々の状態に合わせて、ご家族と相談の上、管理が可能な方は自己管理していただいている。外出等で、支払いが可能な方には欲しいもの、必要なものを職員と一緒に見ながら購入していただけるようにサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話や携帯電話を含めて、特に規制はなく、ご本人の要望に合わせて、その都度電話の使用を支援している。手紙を使用される方には、切手やはがきの購入、投函などを職員が代行して行っており、ご家族や大切な人との関わりを大切にいただけるように支援している。年賀状については、レクリエーションの一環として皆様で手作りして、ご家族や知人の元へお届けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の観葉植物や生花、小物や壁画を飾って四季を感じれるようにしている。畑だけでなく、室内でも野菜栽培をして利用者様とご一緒に水やりをしてお世話をすることで、日に日に育つ野菜の成長、収穫できることを楽しみにいただいている。壁画は入居者個々にできることが違うためにそれぞれで行っていただくことで達成感を味わっていただき、季節を感じていただいている。	共用空間は、天井が高く、明るく開放的な設計になっている。 玄関先には、季節の植物を植え、四季を感じられるような工夫をしている。 また、年1回、業者に依頼し、施設内を消毒する等感染症対策も徹底して、安心して過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは趣味を楽しまれたり、思い思いにお過ごしいただけるように工夫している。ゆっくりとくつろげるようにソファとテレビを設置したり、日当たりの良い場所にベンチやイスを設置している。必要に応じて、家具の配置を変更して、自由に過ごしていただけるように配慮している。またホールはどこにいても目が届きやすいような設計となっており、安全面に配慮している。現在は感染症予防のため、カラオケは制限させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大きな窓が設置されており、外気を感じながら周辺の景色が楽しめるようになっている。入居時にはご本人にとってなじみのある家具や寝具、装飾品を持っていただくことで、家庭での生活が継続できるように支援している。また全室にコルクボードが設置されており、家族の写真や好きなポスターを飾ることで、その人らしさのある居室となり、居心地よく過ごしていただけるようになっている。入居者の状態や希望により、ベッドや家具の位置を変更して気分転換ができるように努めている。	個々の居室には、家族の写真を飾り、馴染みの家具や今までの信仰が継続できるように、必要な仏具や神具等を置いて、居心地よく過ごせるように支援している。 また、掃き出し仕様になっている各居室の窓は大きく、周辺の田畑等の四季の景色が楽しめるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには段差なく、手すりを設置して移動時の安全配慮をして、家具などは移動の妨げにならないように気をつけて配置している。 共有トイレや自室のトイレにはL字型の手すりを取り付けて、安心して毎日の生活を過ごしていただけるようになっている。また各居室には表札を取り付けてご自分の居室が分かるようにし、表札回りには季節に合わせた装飾などもして季節を感じていただけるような工夫もしている。		